

令和4年度学校評価書

玉野市立荘内中学校

校長 住田 義 広 印

1 自己評価について

(1) 自己評価方法

- ①学校評価アンケート（教職員：12月）実施
- ②学校評価アンケート（全校生徒：12月・全保護者：12月）実施
- ③学校評価集計結果への意見聴取（学校運営協議会委員2月）

(2) 自己評価の項目

- ①確かな学力について（5項目）
- ②豊かな心について（5項目）
- ③基本的生活習慣について（12項目：うち4項目は教員のみ）
- ④信頼される学校づくりについて（6項目：うち3項目は保護者・教員のみ）
- ⑤その他（3項目：教員のみ）

(3) 自己評価結果（A，B，Cの3段階評価）

- ◆生徒の評価は上昇したが、教職員・保護者の評価は若干低下している。
- ① 確かな学力について（自己評価：B）
 - 協同学習についてミニ研修等を繰り返すとともに、授業研究会も3回実施した。全教員の協同学習への意識は高まっているが、効果的な授業展開ができているとはいえない面もある。
 - 生徒の自主的な学力向上プロジェクトチームを立ち上げ、自主学習ノートの充実、定期考査・定着度テスト前の学び合い学習などの取組を行うことができた。
 - クロームブックの活用や先行学習を基盤とした協同学習のスタイルは定着してきつつあるが、先行学習課題の取組が生徒側に課題がある。
 - 家庭学習の定着については大きな課題であり、自主学習ノートや学プロの充実と併せて、個別最適化課題、予習的課題・授業・復習課題の連携をテーマに研究する必要がある。
 - 保護者に対する学習ログ等が示されていないため、学習の取組状況が見えにくくなっている。そのために保護者の理解が得にくい。
 - ② 豊かな心について（自己評価：A）
 - コロナ禍の中、可能な限り学校行事を実施し、生徒は成長した。
 - P B I Sの取組が進み、挨拶、言葉づかいなどで生徒が成長している。
 - 校則改革を一層推進し、生徒の自律意識が高まった。端末使用ルールや自動販売機導入ルール等を生徒が作成し、生徒会の自治組織としての意識が高まった。
 - 生徒が主体的にアイデアを提案し、実行する主体的活動が進んでいる。
 - 読書活動については継続的な課題である。
 - ③ 基本的生活習慣について（自己評価：A）
 - 全体的に生徒の規範意識は高く、前向きに生活している。
 - 生徒のルールに対する意識が高まっている。
 - 教職員の指導についての意識は高まっている。
 - クロームブックの適切な使用について、一層指導を徹底する必要がある。
 - 多くの生徒が参加できるボランティア活動を考案する必要がある。
 - ④ 信頼される学校づくりについて（自己評価：A）
 - 学校の取組を認め、中学生の成長を褒めていただくことが増えた。
 - P B I Sの成果もあり、生徒を受け止める温かい雰囲気が醸成されている。
 - 新聞掲載やHP、通信、メール等で広報を徹底し、比較的高い評価をいただいている。
 - 情報化の推進により、家庭や地域の理解が追い付いていないことには課題がある。

2 学校関係者評価について

(1) 学校関係者評価者名

①相賀 一夫	74歳	男性	少年警察協助手
②大西 敏夫	79歳	男性	荘内地区連合自治会長
③葛原 幹夫	72歳	男性	荘内地区民生委員・児童委員協議会長
④栗原 明美	50歳	女性	槌ヶ原ちどり保育園長
⑤三鍋 直美	57歳	女性	荘内幼稚園長
⑥谷口 信子	79歳	女性	荘内地区社会福祉協議会副会長
⑦西字可奈子	43歳	女性	荘内地区主任児童委員
⑧三宅 麻住	43歳	女性	荘内小学校PTAサポーター
⑨小野 寛子	46歳	女性	荘内中学校サポーター
⑩余傳 宏	76歳	男性	元公立中学校校長
⑪大賀 易	54歳	男性	荘内市民センター館長

(2) 学校関係者評価方法

- ・学校運営協議会で評価結果を説明。小・中学校の学校アンケート集計結果を配布し、評価・意見を回答していただいた。

(3) 学校関係者評価結果（A、B、Cの3段階評価）

①確かな学力（総合評価A）

- ・学習習慣の定着は改善されているが、タブレット学習は保護者に理解されにくい。
- ・保護者はメリハリのある学習習慣を望む。・生徒も教師のきめ細やかな指導を評価している。
- ・小学校からクロームブックを活用し、中学校で使いこなして主体的に学んでいる。小から中学校へ、自ら学び行動する、学ぶ意欲を重視していることがよくわかる。今の時代の教育にしっかり対応しようとしている様子が伺える。
- ・テストの点では現れない学力が身に付いていると思う。人と関わる楽しさと難しさを学び、中学生ではそれぞれの役割を考えて動く、とても大切な学力だと思う。「ゴールは高校受験ではない」という言葉に深く納得した。
- ・先生方は一生懸命やられているが、保護者の立場からはもうすこし。教職員と保護者の意識の違いが多少気になる。
- ・経過よりも結果を見ているからかもしれないが、保護者に伝わっていないように思われる。保護者の肯定的な評価が辛口になっているが、家庭学習・自主学习については、家庭での取組も大きく影響するように思える。

②豊かな心（総合評価A）

- ・体験学習が少ないので、達成感は味わえるかと心配する。
- ・生徒が家庭でも読書をしていないという結果だが、読書の必要性をあまりわかっていないのではないか。・生活時間帯のどこかで読書をする時間を設定する必要があるのではないか。
- ・リーダーシップをとる生徒はどの学校にも一定数いると思うが、フォロワーシップが育っているのをうれしく思う。フォロワーシップは周りの人の気持ちを読み取る力であるため、豊かな心だと思う。
- ・中学校では活動が生徒主体で進められているのが良い。やりたいことに向かう中で人への親しみ、優しい気持ち、積極性などが育っていて素晴らしいと思う。
- ・読書習慣がかなり低い状況であることに驚いた。保育園からの読み聞かせ等をつなげたい。

③基本的生活習慣（生活全般）（総合評価A）

- ・非常に規則正しく生活できていると思う。・しっかりあいさつができていて気持ちがいい。
- ・保護者や教職員の評価が低いのは、スマホ等のしすぎにより学力に影響しているからか。ルールは守れているが、ボランティア等の積極的参加が低いのは残念である。
- ・生徒には充実した1日を送ってもらいたい。そのためには家庭の協力が必要である。
- ・様々な場面でICT化が進み、生徒にとって端末等がかなり日常になってきているので、家庭でのそれらの位置づけが難しくなっていると思う。園でもスマホの画面を見ながら出ないと登園できない子もおり、使用時間の制限については、家庭でも苦労していると感じる。
- ・早寝早起き朝ごはん、スマホ等の正しい使い方については評価が低くなっている。家庭との連

携を図り、本人の意識の向上が求められる。幼稚園児でも YouTube やゲーム依存が出てきているので、中学校区の課題であると思う。 ・よく頑張っている生徒をみんなで応援したい。

④信頼される学校づくり（総合評価A）

- ・先生の言動が大きく響くので、優しく応援してあげてほしい。
- ・学校で生徒と教員が信頼関係で結ばれているからこそ主体的な行動に結びついていると思う。
- ・荘内中はとてもオープンな学校で、とても良いと思う。
- ・学校通信でタイムリーに学校の様子が伝わっている。教員は校内で会うと明るく挨拶する。人数が多くて一人一人を見てくれていると感じている。
- ・情報発信に力を入れている。その割に保護者の理解が伸びていない。
- ・学校の頑張りが保護者に伝わっていないのが残念である。

⑤その他（総合評価A）

- ・「命を大切に」をしっかり教えてほしい。「通学路」の意味をしっかり教えてほしい。
- ・どの先生も前向きに「子どもたちのために」努力していることを感じた。子どもたちをぶれない愛情で見守っていただけていることに感謝している。
- ・「考えて行動する」を支える立場は大変だと思う。手間がよりかかるだろう。それでも「子どもたちのために」^mかせて考えさせて取り組ませていることに感謝している。
- ・働き方改革は大変だと思うが、先生の笑顔が子どもたちに影響があるので頑張ってほしい。
- ・小中の教職員が一丸となって同じ方向を向いて取り組んでいることがよくわかる。
- ・先生方の取組を通信やメール等でこれだけ情報共有いただきありがたい。

3 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

◆全教育課程を通じて、主体的に活動し、行動する生徒を育てる。

小中で「児童生徒を主役にした学校づくり」を協働で進める。

●全教職員で「未来の学校づくり」に取り組み、「令和の日本型教育」の実現を目指す。

1 「荘内中版：学びスタイル」（先行学習を基盤とした協同学習）による確かな学力の育成
教育DXを推進し、これからの学びスタイルを実現

2 生徒主体の学校づくり

（1）開発的な生徒指導の推進（P B I S：ポジティブな行動的介入と支援）

（2）生徒が主体的に企画運営する活動を充実

3 中学校区一貫教育の推進

4 「みんなの学校」を実現（思いやりの心を育み共生社会の実現を目指す人間の育成）

5 教職員の資質能力の向上・働き方改革の推進

教育DXを推進し、これからの働き方スタイルを実現